



埼玉県マスコット
コバトン

学生記者による コバトンNPOニュース

発行：埼玉県北部地域振興センター 〒360-0031 熊谷市末広3-9-1 ☎048(578)4572

協力：立正大学ボランティア活動推進センター・大和屋（株）

第93号 令和6年10月発行

特定非営利活動法人くまがやおもちゃ病院(熊谷市)

特定非営利活動法人くまがやおもちゃ病院（長谷川泉 理事長）は、壊れたおもちゃの修理を行っている法人で、2018年から任意団体として活動を開始しました。



◇くまがやおもちゃ病院の始まりと現在

活動を始めたきっかけは、副理事長の新井さんがイオン熊谷にある地域子育て支援拠点「0・1・2・3さいくまっぺ広場」を訪れた際、代表の方からおもちゃを直してほしいという要望があったからだそうです。

最近はおもちゃドクターも16名と増えたため、社会的な団体としての位置づけや、経費的な処理を明確にするために2024年からNPO法人として活動されています。

◇活動について

現在はイオン熊谷で月2回、ニッソーモールで月1回開催しています。今年からは実験教室や工作教室も企画されています。

一日平均20件ほど修理を受け付けていらっしゃいます。多くのおもちゃが入院(預ける)に至っており、後日修理してお返しします。おもちゃの種類としては動くものや光るもの、音が出るものが多いそうです。来院される方は、子ども連れの若い世代から孫のためにと自宅に保管してあったものを持って来られるご高齢の方など幅広くいらっしゃいます。

◇くまがやおもちゃ病院の今後

活動をしていく中で、「おもちゃは壊れても直して使用するという文化を根付かせたい」とおっしゃっていました。また、様々な世代のものづくりの楽しみや科学への興味関心、思いやりの心を醸成し、次世代を担う子どもの育成をすることで持続可能な社会の実現に貢献していきたいとのことでした。

今後はおもちゃ病院の開院と合わせて、今年から始まった工作実験教室を継続していきたいそうです。さらに、後継者の育成や人材確保もしていきたいとのことでした。



◇取材してみた

ドクターの皆さんが対応されている様子を見させていただいている中で、依頼に来た方に丁寧に説明されている様子があったのもとても印象に残っています。ただ直すだけでなく何が壊れた原因なのかをきちんと説明していて、ものづくりへの興味関心を高めたいという姿勢が伺えました。

たまたま取材に行った日に70年ほど前の歴史があるおもちゃの返却に立ち会うことができました。そのおもちゃの見た目もすごく素敵だったのですが、何より動いた瞬間はその場にいた全員が心を奪われるくらい迫力があり、感動的でした。このような現場に立ち会えるのもおもちゃ病院のいいところだと感じました。おもちゃは壊れたら捨てるという文化がある現代でおもちゃを直すということは、親と子や祖父母と孫を繋ぐということだと感じました。

記事(過去分すべて)はこちらからご覧いただけます。
(「くまがやねっとNPO・ボランティアコーナー」)

